

いつまで続く新型コロナウイルス感染

福山では、8月18日に1日では最多の1428人が感染しました。9月に入り就学前施設や小学校での感染、クラスターもありました。とりわけ子どもの感染が多くなっています。家族全員が感染になった例もあるようです。重症化や後遺症の発症は少ないと言われていますが、不安はぬぐいきれません。コロナ感染後、日常生活に戻ったものの咳が続いたり、体調が戻らないなどの高齢者の方々の声も聞かれます。

早く予防策の研究が進めばと強く思います。まずは基本の手洗い、うがい、マスクです。まだまだ気をつけなければなりません。

国の政治状況

7月の参議院議員選挙のあと、与野の大勝で長期安定政権ではとの声もありましたが、旧統一教会(世界平和統一家庭連合)の問題が表面化し一気に政治状況が変わってきました。自民党による、安倍元首相の強引な国葬も国民の批判もある中で行われました。

岸田政権の支持率は下降の一途をたどっています。今必要な事は、コロナへの対応、暮らしの安心、経済の安定です。私もこうした視点で取り組みを強めていかなければと思っています。

9月定例議会が終わりました

9月議会一般質問は、市長や教名の局長・部長がコロナ感染により欠席する中での本会議になりました。ご存じのように10人を越える議員の感染もありました。7波は収束に向かいつつあるとも言われていますが油断はできません。

9月議会の補正予算では新型コロナウイルス感染症関連では、特別養護老人ホームなどへの家族面会室のゾーニング(空間区分け)費用や、オミクロン株対応ワクチン接種事業や、感染者の療養支援事業などの業務委託費、23億円余が可決されました。

市長総体説明より

まず当面の課題として、福山城400年について、新型コロナウイルス感染症に触れられ、コロナへの対応では新規感染者が多くなる中で、県との連携により、病床の確保などの医療提供体制の逼迫回避に努め、その後改善傾向にあり、基本的な感染予防対策と、ワクチンの積極的な接種の要請を訴えました。

また、2期目の折り返しを迎え、これまで「スポーツ感・情報発信・連携」を市政運営の基本に据え、「100の挑戦」と、これを発展させる「新100の挑戦」に取り組んできたこと、これまでの2年間で市政に感じられるようになった「変化」を「確かな成果」につなげるこの決意が表明されました。



一般質問から

私は、6月議会に続き一般質問を行いました。政治状況や子どものいる家庭での離婚前後の支援、子どもの不登校の問題などについて質問しました。詳しくは別紙市民連合に掲載しています。いずれの課題も子どもたちにとってどのような意味を持つのか、子どもを中心に考えて視点を質問しました。

予算特別委員会での西本発言関係

中小企業経営基盤強化支援事業費では、多くの事業者から要望があり、6月議会の予算を増額した提案となりました。1事業所へは6万円を限度とするものですが、スピーディーな審査で、より早く支援事業費を支給することを求めました。

また、コロナワクチン接種では現状の課題、今後の取り組みについて質問しました。また、副反応・後遺症の問題についても相談窓口をより明確にし、市民の不安を和らげる取り組みを求めました。

企業会計決算特別委員会

昨年度(2021年度)の福山市の会計を、一般特別会計決算特別委員会と企業会計決算特別委員会に議員が2つに分かれて決算特別委員会を行います。

私は企業会計決算特別委員会の委員長に選任されました。企業会計決算特別委員会は、市病院事業会計、水道会計、下水道会計、工業用水道会計の、昨年度企業会計の認定についての審査をします。審査認定結果については、10月21日の臨時議会で委員長報告をします。重要な任務ですので頑張りたいと思います。

素敵な本とたくさん 出会えました



「バスが来ましたよ」

難病で視力を失ったものの、白杖の訓練をして仕事に復帰。バス通勤を支援したのは、子どもたちの「バスが来ましたよ」の声のリレーでした。子どもたちの10年以上の善意のバトンで、その男性は無事定年を迎えました。(実話です)

この本を 9月の5年生・6年生で読み聞かせしました

「だじじやんぶだや ぞんちゃん」

おさないネズミと年老いたゾウは、毎日仲良く暮らしていました。けれどもある日、ゾウは「もうすぐ遠いゾウのくにに行って、もうもどらない」とネズミにつげます。いつかはやってくる別れの日、ふたりはどう迎えるのかゾウ。

フローレンス・ブルギニョン 作 柳田邦夫訳 文溪堂